



# 校長室だより

令和4年度  
5月26日  
NO. 2

## 3年ぶりの学区大運動会！

雨が心配されたため、日曜日に延期して実施された秦梨学区大運動会。晴天の下、多くの地域の方々にもご参加いただき、児童、教職員、保護者と学区の方々が一つになって、秦梨学区全員で笑顔溢れる運動会にすることができました。ご参加いただいた方々、ご観覧いただいた方々に心から感謝いたします。

コロナ感染対策のためにこの2年間は実施できなかつたので、3年ぶりの開催でした。学区の運動会を取り止めるところが増える中で、半日開催ではありましたが、小学校と学区全体が一体となって取り組むことは意義深く、価値ある運動会になったと思っています。運動会は、学校の教育活動の延長線上にあるものですから、子供たちには競技、演技に取り組む真剣さを求めてきました。本番では、その期待に見事に応えてくれたと評価しています。また、係の子供たちの動きも機敏だったと褒めたいと思います。開閉会式の係の子供たちの中には、自主練を申し出てきた子もいたそうです。やらされているのではなく、自分たちで創る運動会。そんな子供たちの思いが随所に感じられました。

特に、低学年の「はばたけ！はだなしのつばめ」高学年の演技「挑戦」の演技はよく頑張ったと思います。低学年の子供たちの中には、家に帰ってからも何度も練習した子が少なくなかったと聞きました。高学年の演技では、振り付けのほとんどの部分をダンス部の子供たちを中心に子供たち自身で考えたというのですから驚きです。思いのこもった演技を披露した子供たちは、保護者や地域の方々から大きな拍手をいただき大きな達成感を味わうことができたことでしょう。

地域のある方が、「子供たちも先生も動きがきびきびしていてとてもよかった。秦梨小の日々の



教育活動の様子が分かるようでした。」と仰ってくださいました。私たち教職員にとっては、何よりの褒め言葉と捉え、今後の励みとなりました。

そして、運動会成功の大きな要因の一は、保護者、学区の方々の俊敏な動きにあったと感謝しています。社教担当の「障害物リレー」、「年齢別男女混合リレー」、PTA担当の「秦梨フレンドパーク」の競技。いずれも練習なしの「ぶっつけ本番」であったにもかかわらず、入退場から競技まで、子供と同じように真剣に取り組んでくださいました。笑わせるところも本気でやってくださったので、会場全体が和み、笑いが起こりながらも、ぴりっと締まった雰囲気もありました。緊張感のある消防団のポンプ操法は言うまでもありません。後片付けも、保護者や地域の皆さんが進んで手伝ってくださったお陰で、あっという間に終わることができました。本当に凄い！

小学校と学区が力を合わせて創った笑顔溢れる「秦梨学区大運動」と総括しています。「言うことなし」の大運動会が実施できたことを心からうれしく思っています。

## 秦梨学区の自然（ササユリ・ホタル）

本校は、20年以上前から学区の豊かな自然を題材にした「ふるさと学習」に取り組んでいます。その一環として、長年「にこにこ山」でササユリの保護活動を行ってきました。校歌の中にも「山百合」としてうたわれています。昔は学区の至る所でササユリの美しい花を見ることができたそうですが、主に獣害によりほとんど見ることができなくなってしまいました。そこで、「にこにこ山」で育ててきたのですが、山の環境変化により一昨年から全く咲かなくなってしまいました。復活を願い、昨年度から環境委員会を中心に校内で栽培することを始めました。多くは鉢植えですが、一部を玄関横の花壇に移植しました。その中の一本に花が咲きました。初めの一步ではありますが、この成果を今後の活動の指針にしていきたいと考えています。



また、かつては秦梨学区にもホタルが多く飛び交っていたそうです。河合中学校が長年ゲンジボタルの保護活動に取り組んでいますが、今年度から秦梨小も「ふるさと学習」の一環として、4年生の総合学習で「ホタル」を取り上げ、学習し始めているところです。4月の初めには、河合学区ゲンジボタル保存会の川澄さん、鈴木さんのご指導を仰ぎ、河合中でいただいたホタルの幼虫を校庭東側の側溝に放流しました。これから6月にかけて、幼虫が無事成虫となり光を灯してくれることを期待するばかりです。

ササユリにしてもホタルにしても、私は秦梨学区の宝ではないかと思っています。子供たちもこれらの保護活動に主体的にかかわることで、地域愛を深めていってほしいと願っています。